

平成 24 年度

病害虫発生予報第 7 号

平成 25 年 3 月 22 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス(アブラナ科野菜の根こぶ病について)	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(注 1)では、イネミズゾウムシの発生量はやや少と予想されます。

コムギ(注 2)では、赤かび病の発生量は平年並と予想されます。

(注 1:4 月中旬までに移植する圃場を対象。注 2:11 月上旬までに播種した圃場を対象。)

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病(中晩柑)の発生量はやや多と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝を除去、処分して、薬剤防除は天候に注意して適切に行ってください。そうか病、かいよう病(温州みかん)、ミカンハダニの発生量は平年並と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量はやや多と予想されます、りん片や新梢基部に発

病が確認されたら除去して、圃場外で処分してください。赤星病の発生量は平年並と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は平年並、チャノホソガの飛来時期は平年並と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は多と予想されます。圃場内をよく観察し、寄生密度が高くないうちに薬剤防除を行ってください。灰色かび病、うどんこ病の発生量は平年並と予想されます。

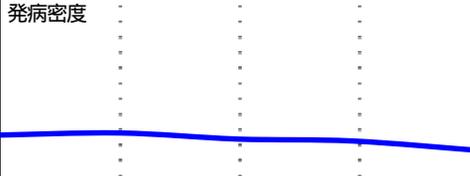
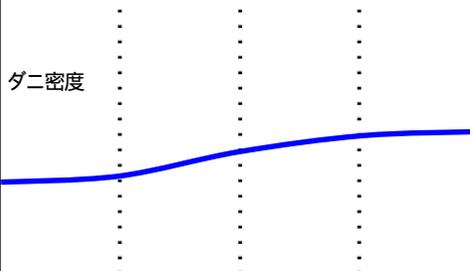
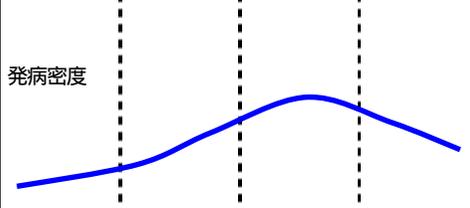
キャベツでは、菌核病の発生量は平年並と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比 程度		要防除 圃場率 平年比	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月		4月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	-	やや少	小	普通				成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	-	平年並	小	普通		出穂期	開花期	感染 発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) 本年は冬期の低温の影響で生育が遅れており、出穂期もやや遅い見込みです。また、播種時期による生育差が大きい模様です。 2) 圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。 3) 防除所ホームページの「コムギ赤かび病・防除情報」において、出穂期および防除適期の予測(随時更新)を公開しています。
カンキツ	そうか病	-	平年並	小	普通	葉枝の発病		発芽		<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年に果実での発病がみられた圃場では、発芽期防除を実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。
	かいよう病	-	温州 平年並	温州 小	温州 普通				発病密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が多い中晩柑圃場では、発芽前防除を実施してください。 2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、圃場より持ち出してください。 3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布に注意してください。 4) 温州みかんでも、中晩柑類との混植園では発病に注意してください。
	ミカンハダニ	-	平年並	中	普通				成ダニ密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当り1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場や現在発生が認められる圃場では、今後の増加に注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	-	やや多	中	普通					1) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	-	平年並	小	普通					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザウハダニ	-	平年並	中	普通					1) 2月下旬～3月上旬に産卵を始めます。 2) 4月上旬頃までは個体数は少ないものの雌成虫が裾葉の裏などに寄生しており圃場内に広く分散しています。葉裏には薬剤が付着しにくいので丁寧に散布しましょう。 3) 年間10世代と発生回数が多く、薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤は連用を避けてください。また、天敵への影響を考慮して薬剤を選択してください。
	チャノホソガ	平年並	-	-	-					1) 新芽の葉裏に産卵や幼虫を認めたら防除してください。 2) 成虫飛来が多くても、新芽がないと被害が少ないので防除を省略できます。新芽の状況を考慮して防除適否を判断してください。
イチゴ	灰色かび病	-	平年並	小	普通					1) 20 前後の温度と多湿条件で発生しやすいです。ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。 2) 発病部位は伝染源となるためこまめに取り除き、予防防除に努めてください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	中	普通					1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理に努めてください。 2) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください
	ハダニ類	-	多	大	高					1) 病害虫発生予察注意報第3号(2月14日発表)。 2) 薬液がかかりやすくなるよう下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。また、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用してください。 4) 薬剤散布では、収穫前日数とともに天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して薬剤の選択を行なってください。
キャベツ	菌核病	-	平年並	小	普通					1) 発病株は伝染源となるため、菌核をつくらぬうちに抜き取って圃場外へ持ち出し、処分してください。 2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。 3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行なってください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、期間の後半の気温は平年並か高く、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率7.8%(平年12.3%)と少、払い落とし虫数0.1頭(平年1.1頭)と少 (-)</p> <p>考察： 昨年の巡回調査結果と今後の気象条件から、越冬成虫の予想発生量はやや少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、期間の後半は平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 1か月予報(3月15日発表)によると、気温は高く、コムギの生育が進展する見込み (-)</p> <p>3) ムギ生育予測システム(11月5日播種・あやひかり・津、3月15日現在)によると、予想出穂期は4月13日頃と、平年に比べて3.3日遅い見込み (+)</p> <p>4) 一般圃場では、平年に比べて生育がやや遅い状況 (+)</p> <p>考察： 現在のコムギの生育は平年よりやや遅い状況ですが、今後の気象条件を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場)では、昨年7月下旬の春葉発病率91.5%(平年60.2%)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、旧葉(昨年の春葉)における発病は確認できず(平年発病度0.0) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並と思われ、大きく増加する時期ではないことを考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場、中晩柑、2月8日調査)では、越冬病斑の発病葉率24.4%(9年平均30.3%)、発病度3.9(9年平均6.8)といずれも少の傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、温州みかん旧葉での発病葉率0%(平年0.3%)、発病度0(平年0.0)と平年並に少、中晩柑類旧葉での発病葉率9.3%(平年9.0%)、発病度2.1(平年2.3)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は温州みかんで平年並に少、中晩柑類でやや多 (+)</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は温州みかんで平年並、中晩柑類ではやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月15日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(3月11日)では、寄生頭数は慣行防除圃場で0頭/葉(平均0.02頭/葉、ただし過去10年中8年は0頭/葉)と平年並に少、無防除圃場で0.03頭/葉(平均0.20頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生葉率7.4%(平年5.4%)と多(+)、寄生頭数0.20頭/葉(平年0.19頭/葉)と平年並(±) (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 圃場によるばらつきがあるものの、現状の発生量はやや少と思われますが、巡回調査結果および気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒星病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月15日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場では、昨年8月の発病葉率2.2%(平年1.6%)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、昨年秋の発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 昨年の巡回圃場および一般圃場の発生状況を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月15日発表)によると、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、昨年春の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 昨年の一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月15日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(3月上旬)では、寄生葉率0.5%(平年5.1%)と少、寄生頭数0.01頭/葉(平年0.30頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発生圃場率31.8%(平年26.1%)とやや多、寄生葉率1.5%(平年1.2%)とやや多、寄生頭数0.02頭/葉(平年0.03頭/葉)と平年並 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量はやや少と思われますが、巡回調査結果及び気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	平年並	-	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月15日発表)によると、気温は高い予想 (発生時期 -)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(亀山市)では、初飛来は3月17日(平年3月第4半旬) (発生時期±)</p> <p>考察: 県予察圃における飛来状況から、予想発生時期は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、平年に比べ晴れの日が少ない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率2.0%(平年2.1%)と平年並、発病果率0.2%(平年0.4%)と少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と思われますが、今後の気象条件による増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(9年平均0.3%)と平年並に少の傾向、発病果率0.04%(平年0.01%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並に少と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生株率30.0%(8年平均15.8%)、発生程度13.7(8年平均8.1)と多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察： 一般圃場の状況を重視して現状の発生量はやや多と思われますが、巡回調査結果および今後の気象条件を考慮して、予想発生量は多と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月15日発表)によると、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(平年0.7%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並に少と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比): 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅				

発生量(平年比): 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度): 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発

生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比): 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例: 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項: 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±): 平年並の要因

(+): 発生量増加または発生時期遅延の要因

(-): 発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「アブラナ科野菜の根こぶ病について」

被害の様子

根こぶ病は、アブラナ科植物に特有の病害であり、一旦発病すると防除が困難な土壌伝染性病害です。本病に感染すると、根に大小さまざまなこぶが多数できます。土壌中からの水分や養分の吸収が妨げられ、晴天の日中に茎や葉が萎れるようになります(図 1)。生育が遅れて葉色は褪せ、収穫物の品質も低下します。ネコブセンチュウの被害でも似たような症状が見られますが、本病よりもこぶが小さく、根全体にできるので区別できます。



図1 キャベツにおける被害の様子
(農業研究所 鈴木啓史氏原図)

三重県内での被害状況

巡回調査では、年次によって発生の多い年もあります(図 2)。県内では主にキャベツやハクサイ、ナバナが栽培されており、被害が散見されますが、近年生産現場における発生は増える傾向にあります。

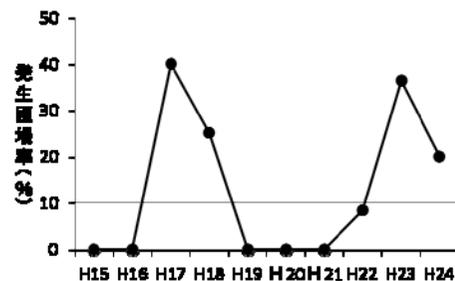


図2 冬キャベツにおける発生状況の推移

病原菌の生態

病原菌(*Plasmodiophora brassicae*)はカビの一種であり、根こぶの中に多数存在します。こぶが腐ると土壌中に分散し、宿主植物がなくても4年以上、ときには10年以上も生き残ります。そのため、一度発生した圃場では、長期間にわたって被害が発生する可能性があります。また、農作業にともなう土の移動や降雨などによって、発生圃場から周辺へ広がることが多いです。

発生しやすい条件

アブラナ科植物を連作すると多発しやすくなります。病原菌は水分を好むため、排水の悪い圃場で発生が多く、夏から秋にかけて雨の多い年も増加しやすいです。また、地温が20℃前後で日照時間が長いと発生しやすいため、8~9月に播種または定植する作型で被害が多くなります。土壌pHも影響し、酸性(pH6.0以下)であると発生が助長されます。

防除対策

- 1) アブラナ科植物の連作を避けてください。
- 2) キャベツでは耐病性品種の利用を行ってください。
- 3) 排水を良くする、高畦栽培を行うなど、圃場の排水対策を行ってください。
- 4) 石灰資材や転炉スラグなどを施用し、土壌酸度を矯正してください。
- 5) 被害株や残渣は圃場外に持ち出して適切に処分し、伝染源を減らしてください。
- 6) 発生圃場で使用した農機具や長靴などに付いた土壌はきれいに洗い落としてください。
- 7) 薬剤防除は土壌処理剤になります。登録内容を確認し、適正に使用してください。

転炉スラグ: 土壌改良資材の一種。製鉄過程で生じる CV 副産物。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 25 年 3 月 15 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わると見られます。期間の前半は南から暖かく湿った気流が入りやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。後半は高気圧に覆われやすく、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

特に、期間の前半は気温が高く、かなり高くなる可能性があります。

1 週目 3 月 16 日 ~ 22 日	期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れますが、その後は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、中頃に雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.4 日・4.2 日
2 週目 3 月 23 日 ~ 3 月 29 日	低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わると見られます。南からの暖かく湿った気流の影響を受けやすく、平年に比べ雨の日が少ない見込みです。	同 2.5 日・4.0 日
3~4 週目 3 月 30 日 ~ 4 月 12 日	低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わると見られます。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.4 日・8.4 日

東海地方週間天気予報 (平成 25 年 3 月 21 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

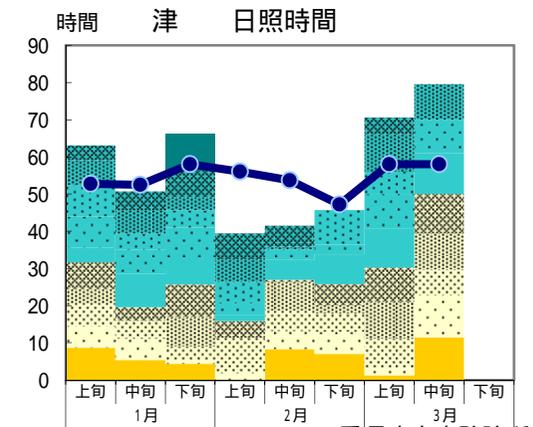
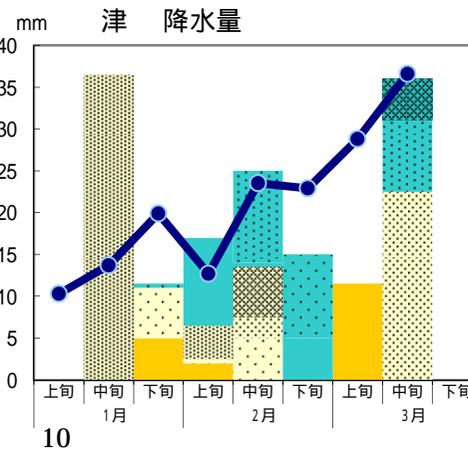
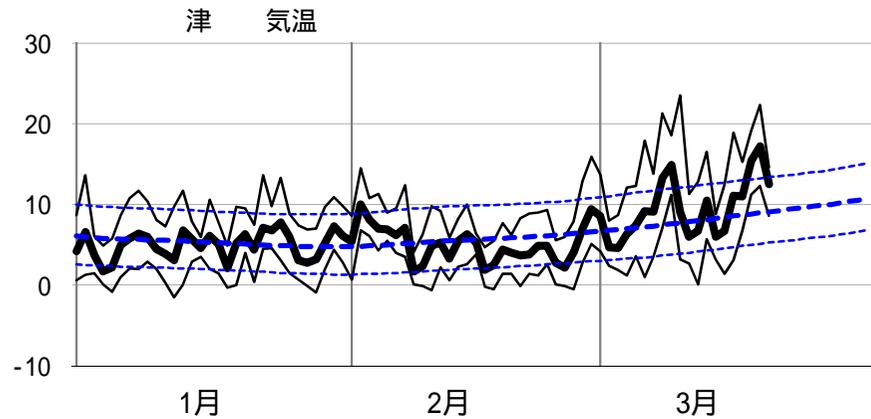
予報期間 3 月 22 日 ~ 3 月 28 日

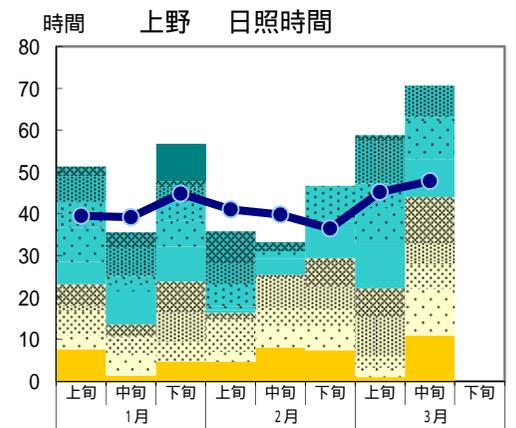
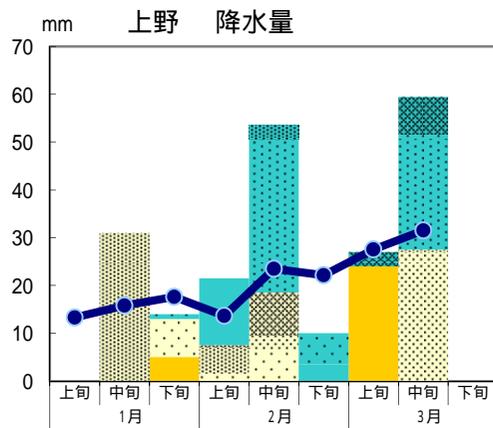
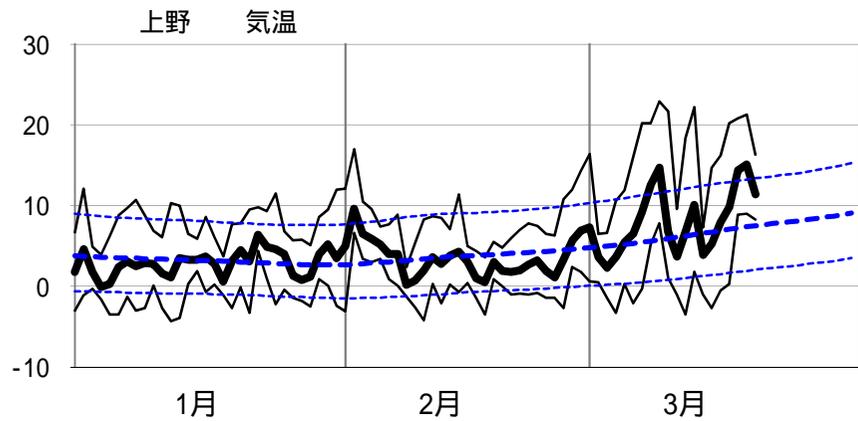
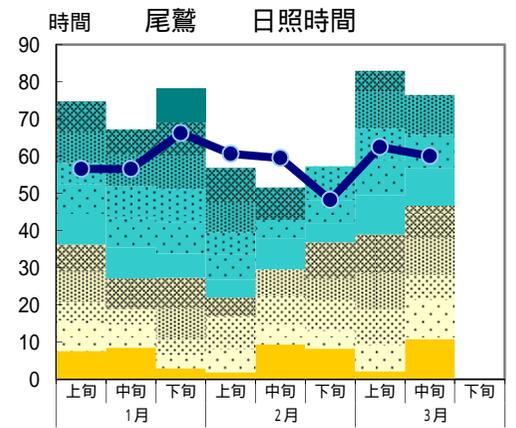
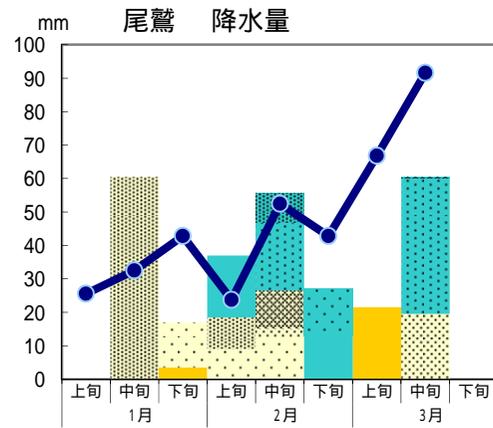
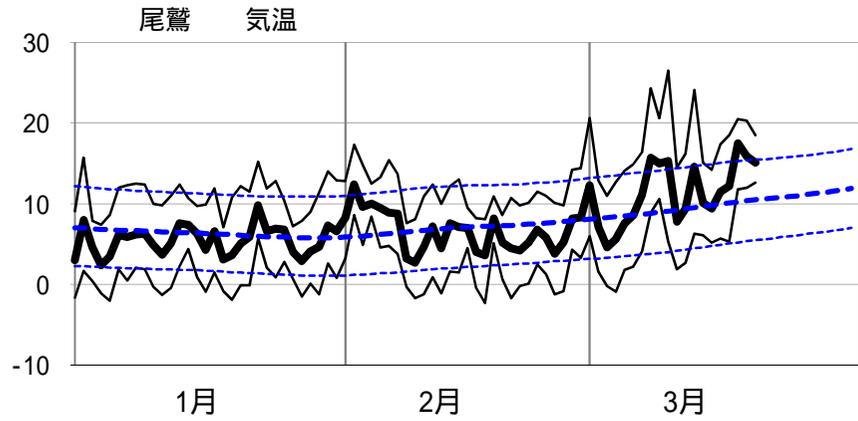
向こう一週間は、天気は数日の周期で変わり、気圧の谷や湿った気流の影響で期間の中頃と終わりには雨の降る日があるでしょう。

最高気温は、期間の中頃に平年より低い日がありますが、その他は平年並か平年より高い見込みです。最低気温は、期間のはじめに平年より高い日がありますが、その他は平年並か平年より低いでしょう。

降水量は平年並の見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3 月 20 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|----------------|
| 第1回 4月26日(済み) | 第2回 5月24日(済み) |
| 第3回 6月21日(済み) | 第4回 7月19日(済み) |
| 第5回 8月23日(済み) | 第6回 10月25日(済み) |
| 第7回 3月22日(今回) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm